

表彰対象 団体名	2025大阪・関西万博若手職員ワーキンググループ
	香月ひかり(総務課)、大信田青嶺(市民課)、島田悠河(収税課) 松尾駿(地域コミュニティ推進課)、西田依梨香(市民活動推進センター) 小澤和弥(消防署本署)、高山哲弥(企画政策課)

推薦者	所属	総務課、市民課、収税課、地域コミュニティ推進課、市民活動推進センター、消防署本署、企画政策課
	職名	所属長
	氏名	森康通、萩本和美、堤良太、藤川幸史、大垣弥生、辻本英彦、牧井望

標題	ミッション”大阪・関西EXPOで生駒をPR”	
----	-------------------------------	--

評価事業種別	<input type="checkbox"/> 発信・表彰	<input checked="" type="checkbox"/> 市民協創	<input checked="" type="checkbox"/> チャレンジ	<input type="checkbox"/> 災害支援・善行	<input type="checkbox"/> 地域貢献	<input type="checkbox"/> その他 ()
--------	--------------------------------	--	---	----------------------------------	-------------------------------	----------------------------------

項目	内容
取組概要	・大阪・関西万博の夢洲会場で生駒市の観光資源を中心とした本市PRを企画、運営。 ・4月の「ALL NARA MARKET」では、宝山寺、山上遊園地といった生駒山の観光を楽しめる360°VR動画の体験ブースをNAIST澤邊准教授及び学生と連携して実施。 ・9月の「ALL NARA HARMONY」では、高山茶筌など竹製品の展示と2つのワークショップ(茶筌の端材を使ったアクセサリーつくり、竹灯籠のデザイン)を行った。
取組効果	・4月、9月催事(6日間)に約2万8千人が来訪。チラシ、カード等PR素材も多数配布。 ・観光VRは約600人が体験。アンケートでは9割以上が生駒市への来訪意欲あり。 ・万博期間中の本市での訪日外国人滞在者数は前年比1.9倍で全国市町村で10位。 ・万博期間中の市内宿泊施設の宿泊数は前年比1.3倍の伸び。
創意・工夫した点	■生駒に来たくなる仕掛け ・VR体験者をチエキ撮影。チエキ持参で宝山寺参道沿いの店舗が優待 ・VR体験者に山上遊園地の割引券を配布 ・会場でデザインした竹灯籠を「高山竹あかり」で展示 ■多様な主体との連携 ・PRのコンテンツづくりをメンバーだけでなく、地域の大学や事業者等との協創で実現(主な連携先:NAIST、近鉄GHD各社、宝山寺、万灯会実行委員会、高山茶筌生産協同組合)
推薦理由	入庁1年目を含む若手職員が、柔軟な発想と行動力で自らの企画を実現したことは、賞賛に値すると思います。 万博会場での出展という他に代えがたい経験と同時に、今回のチャレンジを更なる成長に繋げていただくことを期待し推薦します。
その他参考事項	・VR動画の撮影、編集はNAISTの学生が研究の一環として実施。9月には澤邊准教授が「自治体との連携事例」として、日本VR学会で論文を発表されました。10月のナイスポでもブースを協働で運営し、多くの方々に生駒山観光をVRで楽しんでいただきました。 ・9月の催事では茶筌師からいただいた茶筌の端材や竹の間伐材を使用するなどSDGsにも配慮し取り組んでいます。

取組を表す図や表、写真、成果物など
<p>The collage includes several photographs: 1. A group of people in grey shirts standing behind a booth with 'Ikoma' and 'VR' signs. 2. A group of people posing in front of the same booth. 3. Two people setting up or operating a VR rig outdoors. 4. A person drawing on a large sheet of paper. 5. A map of Ikoma City with surrounding areas labeled. 6. A VR interface showing 'Let's get to know Ikoma City' with sections for cable car, Sanjo Amusement Park, and night views. 7. A QR code for train access. 8. A circular graphic showing a train route from Osaka to Ikoma with a note about no transfer. 9. A note about VR experience duration (about 45 minutes). 10. A caution note for guests with motion sickness. 11. A note about VR availability for children under 10 years old.</p>

表彰 対象者	所属	市民活動推進センターららポート
	職名	主事
	氏名	西田 依梨香

推薦 者	所属	地域コミュニティ推進課
	職名	課課長
	氏名	大垣弥生

標題	学びを地域貢献につなげる！チラシ制作スキルをまなんで市民活動を応援する「Canvaでプロボノ」
----	---

該当事業種別	<input type="checkbox"/> 発信・表彰	<input checked="" type="checkbox"/> 市民協創	<input checked="" type="checkbox"/> チャレンジ	<input type="checkbox"/> 災害支援・善行	<input type="checkbox"/> 地域貢献	<input type="checkbox"/> その他 ()
--------	--------------------------------	--	---	----------------------------------	-------------------------------	----------------------------------

項目	内容
取組概要	市民活動団体は、高齢化やデザインスキルを持つ人材の不足により、活動の周知が進みにくい課題があった。そこで、現役世代の市民がデザインアプリ「Canva」を学び、団体のチラシを制作する4回連続講座「Canvaでプロボノ」を企画した。西田さんは、講座プログラムの作成、団体との調整、ヒアリング設計、素材収集、参加者フォロー、講師との連携を一手に担い、初開催にも関わらず安定した運営体制を構築した。
取組効果	①参加者への効果…全員がアンケートで「満足・ほぼ満足」と回答。地域が良くなるための行動をしたい意欲(NPS)は参加前▲22.2→参加後88.8に大幅上昇した。 ②講座への反響…定員18名に対し、88名の応募が集まり、高い関心が寄せられた。 ③団体への効果…3団体にチラシデータを進呈。西田さんの提案で市内公共施設で配架したところPTAからの出張依頼や団体への入会希望者が生まれた。
創意・工夫した点	①前年度実施の1回完結型のCanva講座に50名以上の申込みがあったことから、市民の潜在的な学習ニーズを把握し、地域課題の解決へ接続する仕組みとして講座を再構築した点 ②単なるスキル習得に留めず、学んだ知識を市民活動団体への貢献として活かす構造とし、学び・挑戦・地域貢献が連続的に生まれる新しい参加の形を提示した点
推薦理由	事業成果を支えたのは、担当職員である西田さんの尽力である。 受講者からは「2回目には全員の名前を覚えてくれていた」「丁寧で温かい対応で安心できた」との感想が複数寄せられ、細やかな声かけ、進歩把握、質問への即応が参加者の学習継続と挑戦意欲の維持を支えた。また、講座全体の調整・運営・場づくりを主体的に担い、試行錯誤しながらも初開催の事業を成功に導いた功績は大きいといえる。
その他参考事項	・終了後、講師から「試行錯誤も多かった中で、西田さんの完璧なサポートがあったから安心して進められた。今回のMVPは西田さんに贈りたい」との評価が寄せられた。 ・参加者から講座の話を聞いた家族が個人ボランティア登録をするなど家庭への波及も確認された。

取組を表す図や表、写真、成果物など

↑ 18名全員が4回すべての講座に出席

↓ 完成したチラシ一例。団体からは「孫に自慢できる「デザインしてもらえてよかったです」との声があり、誇りとモチベーション向上に寄与した。

おもちゃ病院
2025 9/18㈯ 修理料無料

きらきら星
子ども見守りボランティア
メンバーモニターチラシ

あなたのチカラ、貸してください
日用大工
ボランティア募集

表彰対象 団体名	地域医療課(病院事業推進係・地域医療連携係)
-------------	------------------------

推薦者	所属	子育て健康部 地域医療課
	職名	課長
	氏名	知浦太一

標題	生駒市立病院 開院10周年記念式典の開催 ~市民・事業者と共に これまでの10年に感謝し、これからの10年を考える~
----	--

評価事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 発信・表彰	<input checked="" type="checkbox"/> 市民協創	<input type="checkbox"/> チャレンジ	<input type="checkbox"/> 災害支援・善行	<input type="checkbox"/> 地域貢献	<input type="checkbox"/> その他 ()
--------	---	--	--------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	----------------------------------

項目	内容
取組概要	○令和7年6月15日に「生駒市立病院開院10周年記念式典」を開催。 ○記念式典は、6部制で、桜ヶ丘小学校ハーモニックバンドクラブや生駒中学校吹奏楽部による演奏、感謝状贈呈、パネルディスカッション、記念絵画表彰式、奈良県立医科大学教授による記念医療講演を開催した。
取組効果	○式典の参加者は約650名。アンケートでは、90%の参加者が式典全体に「満足・やや満足」と回答があった。 ○病院のこれまでの取組について感謝する場を持つことにより、病院職員が誇りをもって働くことができるとともに、市民満足度が向上する。 ○病院のこれまでの取組を知るとともに、今後の地域医療のあり方について考える機会となった。
創意・工夫した点	○前年度6月に「今までの取組とこれからの市立病院」をテーマにシンポジウム、8月～翌年2月にイベントを含むワークショップ(WS)を開催した。4回のWSでは、病院のありたい姿を市民・事業者・行政で話し合われ、記念式典で参加市民から報告を受けた。 ○式典、ベルステージでの子供向けイベント、会場外で展示・医療講演などを複合的に企画し、子供から大人まで幅広い参加者が楽しめる空間を演出した。
推薦理由	病院のこれからの方について、市民、事業者(指定管理者)、行政が1年以上をかけて対話を続け、共に何ができるのかを考え続けた姿勢は、市の行政全般の模範となる。 式典当日は、市職員や病院スタッフが自分たちで企画したプログラムを参加者と共に楽しんでいる場面を見た。10年で市立病院が地域の方々に受け入れられ、関係する方々が一緒に病院運営を担っていくという姿勢は、大いに表彰に値するものと確信したことが推薦理由である。
その他参考事項	○式典では、奈良県知事、一般社団法人奈良県病院協会会長、一般社団法人奈良県医師会副会長、生駒市議会議長、医療法人徳洲会理事長から祝辞を賜わるなど、市外の様々な団体の協力・参集を得て開催することができた。 ○式典を含む全会場で2,200名を超える参加者があった。 ○レガシーの一つとして、「医療のまちづくりビジョン」を今年度中に策定する。



表彰対象 団体名	消防本部予防課 山田浩平 消防署南分署 田中宏典、田中辰弥、名倉由浩
-------------	---

推薦者	所属	消防本部消防署南分署
	職名	南分署長
	氏名	久保大寿

標題	救急救命士の専門性を生かした救急医療人材育成への挑戦	
----	-----------------------------------	--

評価事業種別	<input type="checkbox"/> 発信・表彰	<input type="checkbox"/> 市民協創	<input type="checkbox"/> チャレンジ	<input type="checkbox"/> 災害支援・善行	<input checked="" type="checkbox"/> 地域貢献	<input type="checkbox"/> その他 ()
--------	--------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	----------------------------------	--	----------------------------------

項目	内容	取組を表す図や表、写真、成果物など
取組概要	生駒市職員である救急救命士として、市の営利企業等への従事制度を活用し、専門学校救急救命士コースの非常勤講師を務めている。日々の救急現場で培った経験を生かし、即戦力となる救急救命士の育成に取り組んでいる。この活動は、公務に支障が出ないように配慮したうえで行っており、地域医療の未来を支える人材育成につながっている。	
取組効果	授業では、実際の救急現場を具体的にイメージできるように指導を行うことで、学生の理解を深め、学習意欲の向上を図っている。あわせて、安全管理や判断力に加えチーム医療におけるそれぞれの役割の重要性を伝えることで、質の高い救急救命士の育成につなげ、結果として地域全体の救急医療水準の底上げに貢献している。	
創意・工夫した点	実際の救急出動の事例や、対応の工夫が求められた場面をもとに、想定訓練や話し合いを行いながら、判断の難しさや救急隊として連携することの大切さを具体的に伝えている。また、一方的に教えるのではなく、学生との対話を大切にし、現場で自ら考え、行動できる力が身に付くよう工夫している。	
推薦理由	市の営利企業等への従事促進制度の趣旨を体現し、専門性を生かした地域貢献活動を継続しているため。将来の救急医療を担う人材育成に直接関与し、市民の安全・安心につながる成果を上げており、他職員の模範となる取り組みである。	
その他参考事項	専門学校では、毎年度、救急救命士国家試験において安定した合格実績を有し、多くの卒業生が全国の消防本部や医療機関へ就職し活躍している。	

表彰 対象者	所属	消防署 北分署救急第1係
	職名	消防士長(北分署救急小隊)
	氏名	古賀菜奈絵

推薦 者	所属	消防署北分署
	職名	北分署長
	氏名	杠 敦史

標題	市内企業とのコラボレーションによる防災・防犯広報について	
----	-------------------------------------	--

該当事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 発信・表彰	<input type="checkbox"/> 市民協創	<input type="checkbox"/> チャレンジ	<input type="checkbox"/> 災害支援・善行	<input type="checkbox"/> 地域貢献	<input type="checkbox"/> その他 ()
--------	---	-------------------------------	--------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	----------------------------------

項目	内容	取組を表す図や表、写真、成果物など
取組概要	<p>本市消防職員の 消防士長 古賀菜奈絵は、生駒市消防本部と生駒警察署が、生駒市内の企業である高山製菓株とコラボレーションして、対象の商品を購入した際にもらえるオリジナルレジ袋を制作しました。</p> <p>オリジナルレジ袋には、消防と警察の啓発サイトが読み取れる二次元コードを印刷し防災・防犯を呼びかける広報活動を実施しました。</p> <p>3機関による共同作成は、奈良県内で初の試みとなりました。</p>	
取組効果	<p>家族で団らん中に、二次元コードを読み取り啓発サイトを見ていただくことで、家族全員で防災・防犯について話し合いをすることができたことや、住宅用火災警報器の設置・維持管理及び救急車の適正利用を広報することができました。</p> <p>高山製菓株とコラボレーションすることで、市外から商品を購入される方々にも「生駒消防」の取組みを広報できました。</p>	
創意・工夫した点	<p>開始時期を秋の火災予防運動(11月9日～)に設定することで、火災予防の周知を含めた広報が実施できるとともに、市民と共に守る立場である生駒警察署とコラボレーションすることで、防災・防犯を同時に啓発できました。</p> <p>高山製菓株がデザインされている画風に沿ったデザインとなるように考慮しました。消防の経費負担をなくし、効率的に広報することができるよう考慮しました。</p>	
推薦理由	<p>今回の企画・提案から実現までは関係機関との調整・協議に翻弄し、もとより日常から生駒市消防のインスタグラムやX及びFacebookを通して、積極的な啓発活動を展開し、改めて生駒市をPRすることができたと感じています。</p>	
その他参考事項	<p>現在、SNSをはじめとする様々な分野でのDX化は急速に普及しており、今回のような取組など様々な活動をSNSを通じて広報していくことが大切だと考えます。</p>	<p>是非、二次元コードを読み取り、ご覧ください。</p>

表彰 対象者	所属	消防署 北分署警備第3係	消防署 南分署予防第2係
	職名	消防士(北分署第2消防小隊)	消防士(南分署救急第2小隊)
	氏名	酒田 虎太朗	松下 知輝

推薦 者	所属	消防署北分署
	職名	北分署長
	氏名	杠 敦史

標題	第53回 全国消防救助技術大会「ロープ応用登はん」に出場・入賞！		
----	----------------------------------	--	--

該当事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 発信・表彰	<input type="checkbox"/> 市民協創	<input type="checkbox"/> チャレンジ	<input type="checkbox"/> 災害支援・善行	<input type="checkbox"/> 地域貢献	<input type="checkbox"/> その他 ()
--------	---	-------------------------------	--------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	----------------------------------

項目	内容	取組を表す図や表、写真、成果物など
取組概要	本市消防職員の消防士 酒田虎太朗及び松下知輝の両名は、令和7年8月30日に開催された「第53回全国消防救助技術大会」(兵庫県三木市)において、「ロープ応用登はん」の種目に奈良県代表として出場し、見事入賞を果たしました。	 
取組効果	消防の救助技術を競う全国消防救助技術大会に出場し、日頃の訓練の成果を遺憾なく発揮して優秀な成績を収め、個々の隊員の救助技術のスキルアップのみならず、更なる市民への安心を確保することに繋げ、他の隊員の模範となり、消防組織の士気向上の一助となりました。	
創意・工夫した点	過去に実績ある職員の訓練姿勢や手法の分析に併せ、最先端の知識や技術を積極的に導入し、そこから導き出した自身の考えを、高い規律と責任感を持ち妥協なく実践しました。また、状況に応じて柔軟に訓練内容や方法を的確に改善し、全国消防救助技術大会入賞を果たしたことは、今後、他分野でも活かされるものであると考えます。	
推薦理由	「第38回奈良県消防長会消防救助技術指導会」(R7.6.20)に出場し、第1位となり、奈良県代表の座を獲得して全国消防救助技術大会に出場しました。 本種目としては3年連続の出場となり、これは生駒市消防のスローガンである、「生駒愛デンティティー」の「他の消防にない独自の輝き」を公の場で証明したといえます。	
その他参考事項	全国消防救助技術大会とは、救助技術の高度化に必要な基本的要素を鍛錬することを通じて、消防救助活動に不可欠な体力、精神力、技術力を養うとともに、全国の消防救助隊員が一堂に会し、競い・学ぶことを通じて、他の模範となる消防救助隊員を育成し、国民の消防に寄せる期待に力強く応えることを目的とした大会です。	

表彰対象 団体名	地域活力創生部 商工観光課 観光振興室
-------------	---------------------

推薦者	所属	地域活力創生部 商工観光課
	職名	課長
	氏名	岸本 大介

標題	高山茶筌の世界発信と生駒山ブランド戦略の深化による誘客促進
----	-------------------------------

評価事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 発信・表彰	<input type="checkbox"/> 市民協創	<input checked="" type="checkbox"/> チャレンジ	<input type="checkbox"/> 災害支援・善行	<input type="checkbox"/> 地域貢献	<input type="checkbox"/> その他 ()
--------	---	-------------------------------	---	----------------------------------	-------------------------------	----------------------------------

項目	内容
取組概要	高山茶筌は「COOL JAPAN AWARD 2025」を受賞し、その文化的価値が広く評価された。また、大阪・関西万博「LOCAL JAPAN展」では制作実演や展示を行い、国内外への発信を強めた。さらに、茶筌制作実演、日本酒ペアリング懐石、夜の茶会を組み合わせた着地型観光商品を造成し、高付加価値の体験を創出した。あわせて、生駒山ブランド推進協議会には近鉄が加入し、ミシュラン星獲得をめざす広域連携も深化した。
取組効果	高山茶筌の国際的評価が向上し、万博展示によって国内外への認知が拡大した。テレビ・新聞・雑誌など各種メディアにも相次いで取り上げられ、発信効果が高まった。造成した観光商品は、伝統文化と食を組み合わせた希少性から高付加価値の体験として注目され、地域事業者との連携の広がりが期待されている。また、生駒山エリアは「夏の人気上昇エリア全国10位」となるなど誘客効果も見られている。
創意・工夫した点	500年以上の歴史を持つ高山茶筌を、単なる伝統工芸の紹介に留めず、制作実演・茶会・食体験を組み合わせた“物語性のある観光商品”として再構築した点が特徴である。さらに、万博での展示とCOOL JAPAN認定の国際的評価を組み合わせ、ブランド価値を戦略的に高めた。また、生駒市・東大阪市・近鉄が連携し、ミシュラングリーンガイド星獲得をめざす一的なプロモーション体制を構築した点にも新規性がある。
推薦理由	高山茶筌を核に、観光・伝統工芸・国際広報を一体で推進し、民間・自治体・職人の協働を実現した取り組みである。国際的評価の獲得、着地型観光商品化、万博での発信、広域連携の進展という複数成果が同時に生まれ、持続可能な地域ブランド形成に大きく寄与した。
その他参考事項	本取組は、伝統工芸・文化観光・万博出展・広域連携を一体で推進した点に特徴がある。行政と職人、事業者、近隣自治体、鉄道事業者が連携し、各主体が持つ強みを結集して進めた結果、文化資源の価値向上と観光誘客の双方に成果が表れ始めている。また、企画立案から広報、パートナー調整まで職員主導で実施し、市の観光ブランドの確立に向けた基盤形成にもつながった。

取組を表す図や表、写真、成果物など

伝統工芸・文化観光・官民協働・広域連携
推進実績



COOL JAPAN
AWARD
2025 受賞



伝統的工芸品「高山茶筌」の
国際的評価の向上
万博・CJA2025・メディア露出増加

着地型観光商品の醸成
観光消費額と滞在価値の向上



茶筌の里
生駒で味わう茶会



生駒山ブランド推進協議会の
広域連携
近鉄新規参入・
訪日客人気エリアトップ10入り

伝統工芸の再評価、地域資源を生かした観光商品化
官民協働・広域連携によるブランド形成による
文化と観光を横断する先進的モデル

表彰対象 団体名	経営企画部 広報広聴課 プロモーション係
-------------	----------------------

推薦者	所属	経営企画部 広報広聴課
	職名	課長
	氏名	古田 領哉

標題	全国広報コンクール(広報企画部門)で入選		
----	----------------------	--	--

評価事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 発信・表彰 <input type="checkbox"/> 市民協創 <input type="checkbox"/> チャレンジ <input type="checkbox"/> 災害支援・善行 <input type="checkbox"/> 地域貢献 <input type="checkbox"/> その他 ()			
--------	--	--	--	--

項目	内容	取組を表す図や表、写真、成果物など
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年全国広報コンクール(主催:公益社団法人日本広報協会)の広報企画部門で、市民と協働した「いこまちマーケット部」をまとめた企画が特選に次ぐ賞である入選となった。 	
取組効果	<ul style="list-style-type: none"> 市民と協働した「いこまちマーケット部」を行うことにより、生駒の魅力発信や働き盛り世代の地域参画を推進した。 令和5~6年度にマーケットを3回実施。出店者53店舗、来場者約3,000人になり、多くの人にまちの魅力を伝えた。 	
創意・工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> 事業者参加者と対話を重ね、将来都市像を踏まえた生駒での理想の日常を考えた。 海外や他自治体の事例を参考にしながら、事業立案前に単発講座を行うなど小さく始めて市民ニーズを探った。 	<p>▲ R6年度開催の様子。一人ひとりの滞在時間が長く、市民のつながりが自然と生まれ、まちの魅力の向上にもつながりました。</p> 
推薦理由	市民と協働したマーケットにより、まちの資源・魅力を発掘・可視化し、現役世代が交流・参画できる場を作る仕掛けを作った。また受賞により生駒市の魅力を県内外に広く伝えた功績は大きいため。	
その他参考事項		

表彰対象 団体名	経営企画部 広報広聴課 広報広聴係
-------------	-------------------

推薦者	所属	経営企画部 広報広聴課
	職名	課長
	氏名	古田 領哉

標題	ふるさとCM大賞NARA2025 ユニーク賞受賞！
----	---------------------------

評価事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 発信・表彰	<input type="checkbox"/> 市民協創	<input type="checkbox"/> チャレンジ	<input type="checkbox"/> 災害支援・善行	<input type="checkbox"/> 地域貢献	<input type="checkbox"/> その他 ()
--------	---	-------------------------------	--------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	----------------------------------

項目	内容
取組概要	ふるさとCM大賞NARA2025は、ふるさとCM大賞NARA実行委員会(奈良テレビ放送(株)等)主催による、県内の市町村が「ふるさとの良さ」をPRする、手作りの30秒CMを制作するコンテストで、令和3年度に始まり、令和6年度が4回目。今回は、ふるさと納税の返礼品で人気No.1のレインボーラムネを中心に、ふるさと納税のPRを行った。
取組効果	出品した作品「魅力、レインボー！」は、県内自治体21作品のエントリーの中から、ユニーク賞を受賞。副賞として、奈良テレビで令和7年度に年間30回当該CMが放送されている。 (参加賞の場合は、年間10回の放送)
創意・工夫した点	本市には、レインボーラムネ以外にも魅力たっぷりの名物がたくさんあり、色とりどりの生駒の魅力と、レインボーラムネの「レインボー」を掛けた動画を自作。忍者が登場する寸劇で視聴者を引き込み、最後は名物の紹介、返礼品の検索に促す構成にした。役者は全員市の職員で、竹林の中で何度もNGを出しながら撮影した序盤のシリアルスな雰囲気から一変して、後半はポップで楽しい雰囲気に仕上げた。
推薦理由	審査の講評において、「工夫されていておもしろかった」「目的がわかりやすかった」「手の込んだ演出で感心した」と評価された。業務が多岐にわたり多忙な中で、職員一丸となって自前で企画・撮影・編集を行い優秀な賞を受賞されたため。また、受賞により生駒市の魅力を県内に広く伝えることができたため。
その他参考事項	

取組を表す図や表、写真、成果物など



動画はこちら▲

表彰対象 団体名	総務部人事課人材育成係・給与係
-------------	-----------------

所属	人事課
推薦者	課長
氏名	小澤 将之

標題	勤務情報システムの更新
----	-------------

評価事業種別	<input type="checkbox"/> 発信・表彰	<input type="checkbox"/> 市民協創	<input checked="" type="checkbox"/> チャレンジ	<input type="checkbox"/> 災害支援・善行	<input type="checkbox"/> 地域貢献	<input type="checkbox"/> その他 ()
--------	--------------------------------	-------------------------------	---	----------------------------------	-------------------------------	----------------------------------

項目	内容
取組概要	旧勤務情報システムは運用から15年近く経過しており、職員のライフスタイルに応じた柔軟な働き方に対応できることに加え、システムのサーバーやタイムレコーダー等のハード面の老朽化に伴うトラブルが今後懸念されることから、プロポーザル方式によりシステムを選定の上、更新作業を実施し、令和7年度から本番稼働を開始した。
取組効果	今後導入を目指すフレックスタイム制度をはじめとした多様な働き方に対応することにより職員の満足度向上に資するとともに、消防職員(約140人)、市内小・中学校における会計年度任用職員(約200人)及び県費負担職員(約650人)がシステムで管理できるようになり、担当部署の負担軽減に繋げた。
創意・工夫した点	交替制勤務やフレックスタイム制度といった複雑な勤務体系に対応するとともに、官公庁独自の勤務制度もシステムに取り入れる必要があるため、システムベンダーと綿密な打ち合わせを実施した上で仕様を策定し、システムに実装した。
推薦理由	本市で運用している旧の勤務情報システムは、平成21年度に構築したもので、システムの更新に際し、現状維持に留めることなく、現在のシステムで勤務管理できていない市内の小・中学校及び消防の職員を新たに対象とするとともに、今後導入予定の1週間の勤務時間を維持した上で週休3日を可能とするフレックスタイム制度に対応するためシステムベンダーとも綿密な打ち合わせを重ね、生駒市職員の働きやすい職場環境の構築に寄与した。
その他参考事項	

取組を表す図や表、写真、成果物など		
システム機能比較		
運用形態	オンプレミス	クラウド
フレックスタイム対応	×	○
交替制勤務(消防)対応	×	○
小中学校対応	×	○
データ移行	-	必要
カスタマイズ性	○	○
システム更新の流れ		
<p style="text-align: center;">更新前</p> <p style="text-align: center;">更新後</p>		